

面談の意義

校 長 武井 正明

皆さんもうご存じだと思いますが、私は人と話をするのが好きです。

これはゴルフとの出逢いが大きいです。ピリピリした緊張感の競技ゴルフも堪りませんが、全く職種の異なる気の置けない仲間と、プレーの合間にいろんな話をしながらのラウンドは、私の大切なリフレッシュタイムになっています。ゴルフのおかげで、交友関係は随分広がりました。世間は狭いものです。みんなどこかで繋がってきます…。

今年度も上半期が終わり、吉中の先生方とも面談をする時間が多くなりました。

先生方は、いつも目の回るような忙しさで、なかなかゆっくりとお話しする時間が取れません。だから、先生方が日頃どんなことを考えながら過ごされているのかを、肌で感じる貴重な時間となります。

そして面談を終えると先生方は口々に「ありがとうございました」と校長室を後にします。校長が先生方と面談をするのは、ごく当然のことなのですが、「自分のために時間を割いて下さってありがとうございます」というその謙虚な姿勢が、私に、面談をして良かった、と更に思わせるのです。

校長室には様々なお客様がいらっしゃいます。お話をして関係や状況が前進して、笑顔でお帰りいただくことが私の願いです。だから、面談は全く苦になりません。

最近、特に印象に残っているのは、先日来室された、あるお父様…。

我が子の事を心配し、話しているうちに自然と涙が滲んできました。

このお父様は、私のように多弁ではなく口下手。溢れるほど愛情があるのは、その優しい瞳でわかります。ただ、その愛情は、まだ大人ではない中学生の我が子には、なかなか伝わりません。そこがもどかしいのです。

私はこういうお父様に自分の父親を重ねます。きっとあの時の親父も、息子とどう接していいかわからなかったんだろなあ。当時の俺にとっては、はっきりしない、鬱陶しいだけの存在だったよなあ。かわいそうなことをしたよなあ、と。

そして、スーツ姿で来校したそのお父さんは「いつも作業着なんです」と笑いました。「作業着、いいじゃないですか。立派な正装ですよ。気にせず作業着で来てください」「いや、違うんです。スーツに着替えて、自分の気持ちをグッと入れてくるんです」とお父さんは仰いました。

ますます好きだねえ、こういう父親。我が子のために本気になる親父。

こういうお父さんと、お子さんの未来のために考えていく時間は、いくらあってもいい。そしてその熱い思いは、20年後、30年後にきっと返ってきます。

親子の間とは、そういうものです…。